



動画・電子書籍を保護してネット配信

KeyringFLASH™ for ブラウザ再生

ユーザーズ マニュアル

目次	
1. 「KeyringFLASH for ブラウザ再生」とは.....	2
2. 暗号化コンテンツ配信の流れ.....	3
3. コンテンツの暗号化.....	4
3.1. アカウント情報の確認.....	4
3.2. ファイルフォーマット.....	4
3.3. 動作環境.....	4
3.4. インストール.....	4
3.5. UNIX系OSの注意事項.....	5
3.6. ヒープサイズのチューニング.....	5
3.7. 暗号化.....	5
3.8. 暗号化時の注意事項.....	7
3.9. ログ出力と終了コード.....	8
3.10. メディアリスト.....	8
4. 暗号化コンテンツの再生.....	9
4.1. スクリプトの配置.....	9
4.2. 暗号化コンテンツを再生するための変更.....	9
5. ユーザコンソール(※機能制限版では提供しません) ...	11
5.1. 機能概要.....	11
5.2. 操作方法.....	11
6. KeyringFLASHクライアント.....	13
6.1. 動作環境.....	13
6.2. インストール.....	13
6.3. アンインストール.....	14
6.4. 暗号化コンテンツ閲覧時の動作.....	14
6.5. キャプチャ制御.....	14
6.6. アップデート機能.....	14
6.7. トラブルシューティング.....	15
7. 用語集.....	15
8. サポートのご案内.....	16
9. 既知の不具合.....	17





このたびは、ご契約いただき、
ありがとうございます。

ご利用の前には必ずこのユーザーズマニュアルをお読みの上、お使いください。

1. 「KeyringFLASH for ブラウザ再生」とは

「KeyringFLASH for ブラウザ再生」とは、アイドック株式会社が開発・提供するFlashコンテンツ配信のための著作権保護SaaS(ASP)サービスです。本サービスでは、Flashコンテンツを暗号化し、正規のサーバから配信されたコンテンツだけを再生させるため、Flashコンテンツの不正な流出を防ぐことができます。

特徴

 強固な暗号	大切なコンテンツや情報を強固な暗号※で保護。ライセンスがなければ閲覧できないため、不正コピーを防ぎます。生データをエンドユーザのPCに残さないのが安心です。暗号化は弊社が提供する暗号化ソフトで行います。※暗号アルゴリズム AES 128bit
 キャプチャブロック	パソコン画面を保存(画面キャプチャ)することによるコンテンツや情報の二次利用を防止します。PrintScreenキーによる画面コピーはもちろん、さまざまな画面キャプチャソフトによる静止画保存・動画保存もブロック。対応キャプチャソフトはウィルス対策ソフトのパターンファイルのように自動更新されます。
 配信ドメイン制限 (※機能制限版では提供しません)	正規の配信サーバ以外からのコンテンツ配信を防止します。事前に登録した正規の配信サーバから配信されているかどうかをライセンスサーバがチェックし、ライセンスを配信します。コンテンツが置かれたサーバのドメインをチェックするタイプと、コンテンツが表示されるページのドメインでチェックするタイプがあります。
 Mac対応	Flash Player向けのDRMソリューションとしては初めてMacに対応。ブラウザもMac Safariのほか、WindowsではInternet ExplorerだけでなくFirefoxにも対応しています。OSやブラウザを選ばないというFlashコンテンツの特性を生かしたコンテンツ配信が可能です。

※本サービスでは、Adobe Flash Media Server等によるストリーミング配信には対応しておりません。

2. 暗号化コンテンツ配信の流れ

本章では、本サービスをご利用いただくために必要な手順の概要を説明します。3ステップでコンテンツを保護して配信することが可能です。

Step0 コンテンツの準備

ブラウザ(Adobe Flash Player)で再生できるFlashコンテンツを用意してください。
(独自ビューアで再生するタイプのFlashコンテンツには対応していません)



KeyringFLASHでは、「ブラウザからの印刷」*1は制御しますが、「Flash Playerからの印刷」*2は制御しません。印刷制御を行う場合は、[コンテンツの作成時に印刷できないよう作成しておく](#)必要があります。

*1 ブラウザのメニューから印刷、[Ctrl]+[p]キーによる印刷など。

*2 Flash上を右クリックして印刷、Flash内からActionScriptを使用して印刷など。

Step1 コンテンツの暗号化

→詳しくはp.4 「3. コンテンツの暗号化」

ユーザコンソール(管理画面)より、「KeyringFLASHプロデューサ」(暗号化ソフト)をダウンロードし、コンテンツを暗号化してください。
(※ユーザコンソールは機能制限版では提供しません。「KeyringFLASHプロデューサ」は弊社からの提供となります。)

Step2 コンテンツ配信ページの作成

→詳しくはp.9 「4. 暗号化コンテンツの再生」

Webサーバに暗号化コンテンツを配置し、それを配信するためのWebページを作成します。その際、復号のためのKeyringFLASHクライアント(p.13参照)をインストールするためのタグを配置するとともに、クライアントソフトにデータを引き渡すためにページの一部(embedタグまたはobjectタグ)を書き換える必要があります。

Step3 コンテンツ配信サーバの登録

→詳しくはp.11 「5. ユーザコンソール(※機能制限版では提供しません)」

暗号化コンテンツを表示するページまたは配信サーバのドメインをユーザコンソールで設定します。
(※ユーザコンソールは機能制限版では提供しません。)

3. コンテンツの暗号化

本章では、Flashコンテンツの暗号手順を説明します。

3.1. アカウント情報の確認

暗号化には「KeyringFLASH for ブラウザ再生」をご契約いただくと発行される「設定完了通知書」に記載されたアカウント情報が必要になります。以下のアカウント情報を確認してください。

KeyringFLASH アカウント	本文中で使用する値
ライセンスサーバ	license.keyring.net:80
ユーザID	user_id
パスワード	Password

3.2. ファイルフォーマット

Flashコンテンツから読み込まれる、以下のファイルフォーマットをサポートしています。

拡張子	ファイルフォーマット
.swf	Flashコンテンツ
.flv	Flashビデオ
.jpg	JPEG画像
.gif	GIF画像
.png	PNG画像
.mp3	MP3 音楽
.m4a	AAC 音楽
.mp4	MP4 ハイビジョン(H264)

3.3. 動作環境

オペレーションシステム	サンマイクロシステムズが提供している JRE (Ver1.5 もしくはそれ以上のバージョン)が動作する OS。
JRE (Java Runtime Environment)	Version 1.5 以上。 ¹

3.4. インストール

プロデューサはzip形式で提供されます。任意のフォルダに解凍して利用してください。

以下、解凍先フォルダを {EncryptorHome} として記述します。

zipアーカイブには、以下のファイルが含まれています。

¹JREは次のURLからダウンロードできます。 <http://java.com/ja/download/>

ファイル	説明
Encryptorc.jar	KeyringFLASHプロデューサ本体
Encryptorc.bat	KeyringFLASHプロデューサ Windows用起動スクリプト 雛型 ²
Encryptorc.sh	KeyringFLASHプロデューサ Unix系OS用起動スクリプト 雛型 ³
その他	KeyringFLASHプロデューサの実行に必要なJARファイルなど

3.5. UNIX系OSの注意事項

OSがUNIX系である場合、以下のように「Encryptorc.sh」に実行属性を付与する必要があります。

```
$ cd {EncryptorHome}
$ chmod +x Encryptor.sh
```

3.6. ヒープサイズのチューニング

プロデューサが稼働するマシンの物理メモリサイズや、暗号化するコンテンツのサイズに合わせて使用するヒープサイズのチューニングを行うことが可能です。

※起動スクリプトでは、デフォルト値として128MBに設定されています。

※目安として、暗号化するコンテンツのファイルサイズの半分程度のヒープサイズが必要です。

3.6.1 ヒープサイズの変更方法

直接Encryptorc.jarを起動する場合は、オプション-Xmxを使用して指定します。

付属の起動スクリプトを使用する場合は、以下の太字部分を変更します。

【OSがLinuxの場合】

「Encryptorc.sh」を編集します。

```
#!/bin/sh
java -Xmx128M -jar Encryptorc.jar
```

【OSがWindowsの場合】

「Encryptorc.bat」を編集します。

```
@echo off
java -Xmx128M -jar Encryptorc.jar
```

3.7. 暗号化

コンテンツの暗号化は、コマンドラインベースで行います。以下に暗号化オプションの詳細を示します。

3.7.1 暗号化オプション

コンテンツを暗号化する際のオプションを以下に示します。

1) 書式

```
java -Xmx128M -jar Encryptorc.jar [オプション]
```

2) オプション

パラメータ	説明
-------	----

² お客様のWindows環境に合わせて、パス等を変更して利用してください。

³ お客様のUNIX系OS環境に合わせて、パス等を変更して利用してください。

-i <path>	(必須)入力ファイルパス ※フォルダの場合は、内部のファイルを全て処理
-o <path>	出力ファイルパス ※省略時は入力ファイルパスと同じ値が使用されます。
-ft <ext,...>	処理を行うファイルの拡張子(拡張子の '.' は含まない、 複数の場合は ',' で連結、大文字小文字は無視される) ※省略時は全てのファイルを処理。 ※-fr オプションと同時に指定する事は出来ません。
-fr <path>	暗号化対象指定ファイルパス 詳細は 3.7.3暗号化対象指定ファイル を参照 ※-ft オプションと同時に指定する事は出来ません。
-csvfile <path>	メディアリストファイルの出力先ファイルパス。 ※省略時はencryptedMediaList.csv
-l <host:port>	(必須)ライセンスサーバのホスト名:ポート番号
-ai <username>	(必須)ライセンスサーバのユーザID
-ap <password>	(必須)ライセンスサーバのパスワード
-at <user type>	(必須)ユーザ契約区分 2: KeyringFLASH
-x <host:port>	ライセンスサーバとの通信で使用するプロキシサーバのホスト 名:ポート番号
-xi <username>	プロキシ認証に使用するユーザ名
-xp <password>	プロキシ認証に使用するパスワード
-keyid <key id>	暗号化に使用する鍵のKeyID ※同一鍵暗号化で使用 以前に暗号化したファイルと同一のKeyIDで暗号化を行いたい 場合に、そのファイルで使用されているKeyIDを指定します。 ※省略時は新しい鍵が使用されます。
-test	暗号化されるファイルの一覧を出力します。 暗号化は行われません。
-rgntype <1 2>	(ver 1.4.28以上)初期化ベクタの生成に使用する乱数生成ク ラスを変更します。 1: SecureRandomクラス 2: Randomクラス ※省略時は1が使用されます。 実行環境によっては、SecureRandomクラスによる乱数の生成 に時間がかかる場合があります。その場合は2を指定して下さ い。

3.7.2 暗号化サンプル

Flashコンテンツ暗号化のサンプルです。

c:¥file.mp4を暗号化し、c:¥file-e.mp4に出力します。

```
$java -Xmx128M -jar Encryptorc.jar -i c:%file.mp4 -o c:%file-e.mp4 -ai username  
-ap password -at 2 -l license.keyring.net:80
```

ブックビューアのように、複数の画像ファイルを扱うFlashコンテンツの暗号化サンプルです。

c:%contents内の全てのJPEGファイルを暗号化し、c:%contents-eに出力します。

```
$java -Xmx128M -jar Encryptorc.jar -i c:%contents -o c:%contents-e -ft jpg  
-ai username -ap password -at 2 -l license.keyring.net:80
```

※JPEGファイル以外は単純にコピーされます。

3.7.3 暗号化対象指定ファイル

オプションで暗号化対象指定ファイルを指定するためのファイルです。

- 1行毎に暗号化対象ファイルのパスを記述します。
- 各行のファイルパスは、-i オプションで指定されるフォルダからの相対パスをJavaの正規表現で指定します。

1) サンプル

オプションで暗号化対象指定ファイルを指定した場合のサンプルです。

1. 暗号化対象指定ファイルを作成します。

暗号化対象指定ファイル(sample.txt)

```
sample¥¥image¥¥[0-9]{3}.jpg  
sample¥¥.*¥.swf
```

※ファイルパス中の".", "¥"などの文字は正規表現ではメタ文字とみなされるため、エスケープする必要があります。

2. -fr オプションを指定して、暗号化を行います。

```
-i c:%temp¥src -fr sample.txt
```

3. -i オプションで指定したフォルダ配下に以下のファイルが存在する場合、下線のファイルが暗号化されます。

```
c:%temp¥src¥index.html  
c:%temp¥src¥js¥script.js  
c:%temp¥src¥sample¥viewer.swf  
c:%temp¥src¥sample¥resource.swf  
c:%temp¥src¥sample¥001.jpg  
c:%temp¥src¥sample¥image¥002.jpg  
c:%temp¥src¥sample¥image¥003.jpg  
c:%temp¥src¥sample¥image¥title.jpg
```

3.8. 暗号化時の注意事項



HTML上の<object>タグ、<embed>タグに指定されるswfファイルは暗号化しないで下さい。再生が正常に行われない場合があります。

3.9. ログ出力と終了コード

3.9.1 ログ出力

処理内容のログは、標準出力に出力されます。エラーが発生した場合は標準エラーに出力されます。

3.9.2 終了コード

正常に処理が終了した場合、OSに0を返します。エラーが発生した場合、1を返します。

3.10. メディアリスト

プロデューサは、暗号化終了時にメディアリストファイルを以下に出力します。

出力ファイルパス	プロデューサと同じフォルダ内のencryptMediaList.csv
----------	-------------------------------------

3.10.1 メディアリスト詳細

キーリングプロデューサは、暗号化が正常に終了すると以下のフォーマットでCSVファイルを出力します。

KEYRING.NETと連携するには、KEYRING.NETで管理しているKeyIDをキーとして、インタフェースを執らなければなりません。ライセンスの設定や削除において、KeyIDが必要とされます。そのため、この出力結果は、WEBストア側のシステムで永続的に、「WEBストア側で管理しているコンテンツ(暗号化されたファイル)のIDとKEYRING.NETが管理しているコンテンツのKeyID」を紐づけ、管理してください。

CSVフォーマット	“処理日時”,”KeyID”,”暗号化ファイルパス”
-----------	----------------------------

CSVの各項目は以下の内容を示します。

項目名	説明
処理日時	暗号化を行った日時
KeyID	暗号化ファイルに一意に割り当てられたID
暗号化ファイルパス	暗号化ファイルの出力先ファイルパス

4. 暗号化コンテンツの再生

本章では、暗号化コンテンツを再生するためWebページの作成方法について解説します。基本的には、通常のFlashコンテンツを配信するためのWebページ作成と同じですが、KeyringFLASHクライアントをインストールするためのタグの配置と、それにデータを受け渡すためにページの一部(embedタグまたはobjectタグ)を書き換える必要があります。

4.1. スクリプトの配置

4.1.1 クライアントソフトをインストールするスクリプトの配置

暗号化コンテンツを再生するには、復号のためのクライアントソフトである「KeyringFLASHクライアント」を必ずインストールする必要があります。そこで、以下のスクリプトKRInsObj.KeyringInstallTag（下記サンプルソースの①）をWebページに配置することで、エンドユーザの環境に応じてインストールを促すメッセージが自動的に表示されます。

※このスクリプトはオプションです。コンテンツの再生に必須ではありません。

4.1.2 印刷制御のためのスクリプトの配置

以下のスクリプトKRInsObj.PrintControl（下記サンプルソースの②）を配置することで、ブラウザのメニューからの印刷を制御することができます。この時、msgには印刷時に表示される任意のメッセージを指定することができます。

※このスクリプトはオプションです。コンテンツの再生に必須ではありません。

4.1.3 ブラウザプラグイン制御のためのスクリプト配置

以下のスクリプトKRInsObj.ScreenCapturePluginsControl（下記サンプルソースの③）を配置することで、画面キャプチャ機能を持つブラウザプラグインを制御することができます。

※このスクリプトはオプションです。コンテンツの再生に必須ではありません。

```
<script src="http://www.keyring.net/js/krins.js" type="text/javascript">
</script>
<div id="contents">
インストール後に表示するコンテンツ
</div>
<script type="text/javascript">
KRInsObj.KeyringInstallTag({target:"contents"}); // ①
KRInsObj.PrintControl({target:"contents", msg:"This contents can't be printed."}); // ②
KRInsObj.ScreenCapturePluginsControl({target:"contents"}); // ③
</script>
```

4.2. 暗号化コンテンツを再生するための変更


KeyringFLASHクライアントに暗号化コンテンツであることを認識させるため、<object>タグと<embed>タグを以下のように変更する必要があります。


<object>タグ	● classid属性を”clsid:D27CDB6E-AE6D-11cf-96B8-444553540000”から ”clsid:C17A2F6E-E463-4800-BC34-77AF00C04EB1”に変更します。
------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ● codebase属性が存在する場合は、削除します。 ● <param name="wmode" value="transparent"/>または<param name="wmode" value="opaque"/>が存在する場合は削除します。 <p>※<object>タグに指定されているその他の属性及び<param>タグの値は、そのまま Flash Player に渡されます。</p>
<embed>タグ	<ul style="list-style-type: none"> ● type属性を"application/x-shockwave-flash"から"application/x-keyringflash"に変更します。 <p>※<embed>タグに指定されているその他の属性は、そのまま Flash Player に渡されます。</p>

また、<object>タグと<embed>タグが存在するHTMLのヘッダに、以下の<meta>タグを追加する必要があります。

```
<meta scheme="Keyring" name="old_flash_plugin" content="disable">
```

 この<meta>タグは<head>タグ内の先頭に記述して下さい。この<meta>タグより前に<script>タグ、<link>タグが記述されていると、<meta>タグが認識されません。

 <frame>を使用している場合、<frame>が記述されているHTMLファイルの<head>内に記述して下さい。<frame>によってロードされているHTML内に記述した場合、<meta>タグが認識されません。

 IE版KeyringFLASHではExternal Interfaceを使用することができません。

External Interfaceを使用してActionScriptを呼び出すJavaScriptがHTML上に存在している場合、エラーが発生するため、その処理をコメントアウトする必要があります。

5. ユーザコンソール(※機能制限版では提供しません)

ユーザコンソールは、コンテンツ配信サーバの登録や、ライセンス発行数などの統計情報の確認ができるWebアプリケーションです。

5.1. 機能概要

メニュー	説明
統計情報	コンテンツの暗号化を行った回数及びライセンスを発行した回数が確認できます。
サーバ設定	本サービスのご利用に必要なサーバ設定の変更ができます。申込後は全ての設定項目が初期値になっていますので、必ずサーバ設定を確認し、必要に応じて変更してください。
ダウンロード	KeyringFLASHプロデューサ(暗号化ソフト)と本マニュアルをダウンロードすることができます。

5.2. 操作方法

5.2.1 ログイン

ユーザコンソールをご利用になるためにはログインが必要です。契約時に発行される「設定完了通知書」に記載されているユーザコンソールのURLにアクセスし、ユーザIDとパスワードを入力、「OK」ボタンをクリックしてログインしてください。





5.2.2 ユーザコンソールメニュー

ログインに成功すると、ユーザコンソールメニューが表示されますのでご利用になる機能をクリックしてください。画面右上には、現在ログイン中のアカウント名(契約者名)が表示されます。複数ご契約いただいている場合、アカウント名をご確認の上、お間違えのないようご利用ください。操作方法はオンラインヘルプをご参照ください。設定上重要な「サーバ設定の変更」については、次項で解説します。



5.2.3 サーバ設定の変更

各種設定の変更を行う画面です。設定可能な項目は以下の通りです。

項目	説明
ドメイン名のsuffix	<p>暗号化コンテンツを表示するページ(または配信サーバ)のドメイン名を指定します。ここで指定されたドメイン名のページ(またはサーバ)から配信された暗号化コンテンツのみ、ライセンスが発行され、再生が可能になります。</p> <p>【設定例】</p> <p>www.example.com という単一のサーバから暗号化コンテンツを配信する場合 ⇒www.example.com と入力します</p> <p>host1.example.comとhost2.example.comなど、2つ以上のサーバから暗号化コンテンツを配信する場合 ⇒example.comと入力します</p> <p> comやco.jp等、組織を特定できないドメイン名は指定しないでください。 ※初期値は設定されていません。</p>
認証タイプ	<p>認証を行うサーバの種類を指定します。「Webサーバドメイン」と「コンテンツサーバドメイン」の2種類があります。</p> <p>「Webサーバドメイン」 コンテンツを表示するWebページURLのドメインで認証を行います。 公式サイトなど、配信サイトを限定したい場合に向いています。</p> <p>「コンテンツサーバドメイン」 コンテンツを配置しているサーバのドメインで認証を行います。 複数のページで表示されるコンテンツの場合に向いています。</p> <p>※初期値は「Webサーバドメイン」が設定されています。</p>
印刷制御	<p>ブラウザの印刷機能を制御できます。</p> <p>「制御する」 ブラウザからのページ印刷を禁止したい場合に指定します。</p> <p>「制御しない」 印刷制御を行いません。(ブラウザからページ印刷することが可能です)</p> <p> Flash Playerのメニューからの印刷は制御されません。コンテンツ作成時に印刷できないよう作成しておく必要があります。</p>

5.2.4 ログアウト

ユーザコンソールを利用後は必ずログアウトするか、ブラウザを終了してください。

6. KeyringFLASHクライアント

KeyringFLASHクライアントは、暗号化コンテンツの復号や、画面キャプチャをブロックしているクライアントソフトウェア（ブラウザプラグイン）です。ブラウザ内に常駐し、暗号化コンテンツを検知すると復号を開始します。暗号化コンテンツを再生するためには必ずインストールされている必要があります。

6.1. 動作環境

Windows

	Windows XP [32bit] ※1	Windows Vista [32bit] ※1	Windows 7 [32bit,64bit] ※1
ブラウザ ※2	Internet Explorer (6),(7),8 Firefox (3~14),15	Internet Explorer (7),(8),9 Firefox (3~14),15	Internet Explorer (8),9 [32bit] Firefox (3 ~ 14),15 [32bit]
Adobe Flash Player	10,11	10,11	10,11

Mac

	OS X 10.6.1 ※1	OS X 10.7 ※1	OS X 10.8 ※1
ブラウザ ※2	Safari (4),5	Safari (5),6	Safari 6
Adobe Flash Player	10,11	10,11	11

※1 動作確認は最新のサービスパック、アップデートが適用された環境で実施しております。

最新のサービスパック、アップデートが適用されていない環境で発生する不具合については、サービスパック、アップデートを適用する事でご対応下さい。

※2 ()は簡易動作確認のみ実施しているため、不具合が生じた場合はバージョンアップでご対応下さい。

6.2. インストール

インストールのためのタグを配置することでエンドユーザにインストールを促すことが可能ですが（「4.1 クライアントソフトをインストールするタグの配置」p.9参照）、インストーラをダウンロードして手動インストールすることもできます。インストーラは以下からダウンロードできます。

Internet Explorer版（Windows）

<http://www.keyring.net/client/file/keyringflash.exe>

Firefox版（Windows）

<http://www.keyring.net/client/file/Keyringflash-firefox.exe>

Safari版（Mac）

<http://www.keyring.net/client/file/KeyringFlash.dmg>

インストールには管理者権限が必要です。インストール後、KeyringFLASHクライアントはブラウザのプラグインとして動作し、コンピュータ上の全ユーザから使用可能になります。

6.3. アンインストール

以下の手順によりKeyringFLASHクライアントをアンインストールできます。

Internet Explorer版(Windows)

ブラウザをすべて終了した上で、

[スタートメニュー]>[すべてのプログラム]>[Keyring]>[KeyringFLASH]>[アンインストール]

からアンインストールを実行します。後は画面の指示に従ってください。

Firefox版(Windows)

[スタートメニュー]>[すべてのプログラム]>[Keyring]>[KeyringFLASH for Firefox]>[アンインストール]

からアンインストールを実行します。後は画面の指示に従ってください。

Safari版(Mac)

「Finder」を起動し、「(ユーザのホームフォルダ)」>[ライブラリ]>[Internet Plug-ins]>[KeyringFlashPlugin.plugin]

から、KeyringFlashPlugin.pluginを削除します。

6.4. 暗号化コンテンツ閲覧時の動作

KeyringFLASHクライアントはブラウザ内に常駐し、暗号化コンテンツの読み込みを検知すると以下のような流れでライセンスの取得を開始します。

- ①KeyringFLASHクライアントがコンテンツを表示しているページURL(またはコンテンツURL)をライセンスサーバに送信
- ②ライセンスサーバはユーザコンソールに登録されているドメインと照合の上、合致すればライセンスを発行(※機能制限版では提供しません。)
- ③ライセンス発行を受けたKeyringFLASHクライアントが暗号化コンテンツを復号し、再生開始

6.5. キャプチャ制御

KeyringFLASHクライアントが暗号化されたコンテンツを再生している間、PrintScreenキー及び画面キャプチャソフトによる画面キャプチャを防止します。

OSレベルでのキャプチャ機能を制御しているほか、対応する画面キャプチャソフトはウイルス対策ソフトのパターンファイルのように随時更新されるため、意図しないコンテンツの2次利用からコンテンツを保護することができます。

一部の画面キャプチャソフトが起動している状態で暗号化コンテンツを再生すると、画面キャプチャソフトを強制終了することがあります。

6.6. アップデート機能

KeyringFLASHクライアントはライセンスの取得時に最新版のソフトウェアがある場合、エンドユーザにアップデートの確認を行います。右のようなダイアログが表示されます。

ボタン	動作
今すぐダウンロード	最新版のインストーラをダウンロードします。
インストールしない	アップデートを行わずに処理を続けます。



	※サーバ側で旧バージョンの使用を許可していない場合は使用できません。
--	------------------------------------

6.7. トラブルシューティング

インストールやコンテンツ閲覧時のトラブルシューティングについては、最新の情報を以下の「よくある質問と回答」ページにご用意しています。エンドユーザによる自己解決向けに、配信サイトからリンクしていただくことも可能です。

■KeyringFLASH よくある質問と回答

http://www.keyring.net/support_faq/keyringflash/

7. 用語集

用語	説明
KeyringFLASHプロデューサ	Adobe Flash Playerで再生可能なファイルを暗号化するためのコマンドラインツール
コンテンツ	Adobe Flash Playerで再生可能なファイル
暗号化コンテンツ	Adobe Flash Playerで再生可能なファイルを暗号化したファイル
エンドユーザ	Internet Explorer、Firefox、Operaを使ってWebStoreを利用している一般ユーザ
ライセンス	暗号化コンテンツを復号できる条件を定義した情報
KeyringFLASHクライアント	暗号化コンテンツを、ライセンスに従って復号し、Adobe Flash Playerで再生可能にするためのプラグインソフトウェア
ライセンスサーバ	本サービスのサーバシステム
ユーザID	本サービスを利用するために必要となるアカウント情報。暗号化時、ライセンス設定時、ユーザコンソール利用時に必要となる
パスワード	本サービスを利用するために必要となるアカウント情報。暗号化時、ライセンス設定時、ユーザコンソール利用時に必要となる

8. サポートのご案内

ご契約者向けに、導入・運用時のお問い合わせ受付(メールのみ)やソフトウェアのバージョンアップ版提供などのサポートサービスを提供しています。詳しくは契約後に送付される「設定完了通知書」に同封の資料をご覧ください。

ご注意

エンドユーザからのインストール及び閲覧時のトラブルについては、弊社にて直接のサポートは行っておりません。契約者側にて問題の一次切り分けを行っていただいた上で、お問い合わせいただくこととなっております。

9. 既知の不具合

- A) IE版クライアントでは、ExternalInterfaceが動作しません。Flash側のActionScriptからHTML側のJavaScriptを呼び出す事は可能ですが、HTML側のJavaScriptからFlash側のActionScriptを呼び出すことができません。このようなJavaScriptが存在する場合、エラーが発生するため、その処理をコメントアウトする必要があります。

- B) IE版クライアントでは、<object>タグに<param name="wmode" value="transparent"/>または<param name="wmode" value="opaque"/>が存在する場合、Flashコンテンツが表示されません。これらは削除する必要があります。